



耕うん機
FR315
取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとうございます。 ございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

●一般公道でのトレーラー走行はできません。

(本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。)

●夜間作業はできません。

(本機は作業灯が装備されていません。)



ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という
願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。



本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン エンジン
排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は

- ・作業をするときは、必ず携帯してください。
- ・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- ・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目 次

安全にお使い いただくために	これだけはぜひ守りましょう	4
安全ラベル		9
サービスと保証について		11
各部の名称と取扱いをおぼえましょう		12
エンジン スイッチ		14
エンジン回転調整レバー		14
主クラッチ レバー、クラッチ固定レバー		15
ハンドル上下レバー		16
ハンドル固定レバー		17
変速レバー		18
始動グリップ		18
チョーク レバー		19
燃料コック レバー		19
スタンド レバー		20
駆動車輪取付けピン(Jタイプ)		21
ロータリ切換えレバー		22
ロータリ		23
サイド カバーの開閉		23
ロータリ カバーの延長		23
ロータリ カバーの開閉		24
尾ソリ		24
フロント ガイド プレート、マッド ガード、マッド ガード セット プレート		25
耕うん幅		26
耕うん爪の外爪と内爪		28
逆転時のロータリ ホルダ取り付け		29
作業前に点検調整しましょう		30
作業前の点検		30
ガソリンの点検		31
エンジン オイルの点検		33
エア クリーナ(空気清浄器)の点検		34
変速機オイルの点検		35
エンジンのかけかた		36

運転操作のしかた	41
ロータリ	41
● ロータリ切換えレバー	41
変速	43
● 変速レバー	43
運転	44
● 主クラッチ レバー	44
● クラッチ固定レバー	45
● エンジン回転調整レバー	46
エンジンのとめかた	47
定期手入れを行いましょう	49
やさしい点検・整備	50
エンジン オイルの交換	50
エア クリーナ(空気清浄器)の清掃	52
点火プラグの清掃、調整	53
燃料ろ過カップの清掃	54
エンジン回転調整ケーブルの点検調整	55
ハンドル上下レバー ケーブルの調整	56
スタンド レバー ケーブルの調整	57
主クラッチ ケーブルの調整	58
長期間使用しないときの手入れ	59
故障のときは	61
主要諸元	62

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機を使用させないでください。特に子供には絶対に操作させないでください。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておってください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止を行ってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。

警告

- 作業内容に適した作業機はお買いあげいただいた販売店に、ご相談ください。
- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
 - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故がおきやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、路面の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
 - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりするおそれがあります。
 - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分におとし、周囲に注意して行ってください。
 - ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
 - ・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

警告

- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
 - ・ 急傾斜、溝または畦超えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
 - ・ ほ場の状況を十分に把握し、廻りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて安定した場所で確実に固定してください。
- 爪(タイン)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると大ケガをするおそれがあります。
 - ・ エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
 - ・ 作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
 - ・ 作業の前にはほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取り除いてください。
 - ・ 作業中異物に当たった時はすぐにエンジンを止め、点火プラグ キャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になるおそれがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすくまた気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
 - ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
 - ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
 - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータリ作業時は爪回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせるのは絶対やめてください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音部)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているため、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディカバー等かける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

警告

●積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

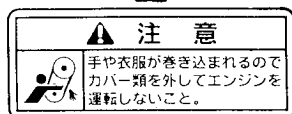
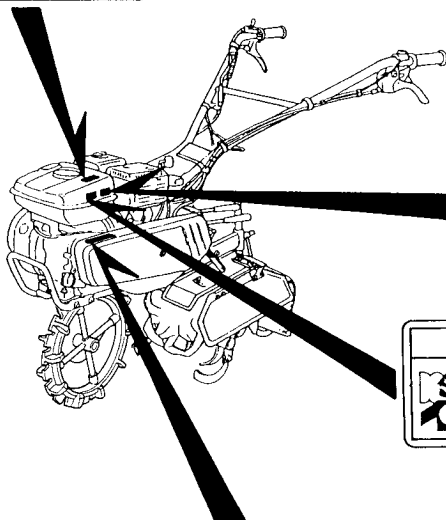
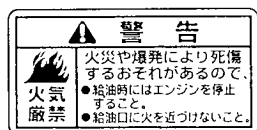
- ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
- ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
- ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かない様にしてください。
- ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
- ・エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
- ・使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのあるタイヤ幅以上の幅があるものを使用してください。
- ・アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さのものを使用してください。(目安として荷台の高さの4倍の長さ)
- ・アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
- ・車軸に耕うん作業機を装着しているときは、タイヤに付け替えてください。
- ・ロータリ装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
- ・積み込みは、前進で、積み降ろしは後進で行ってください。
- ・アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
- ・本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを絶対に切らないでください。
- ・積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れ、主クラッチを“入”の状態にしてください。
- ・燃料コックは“閉”にして運搬してください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

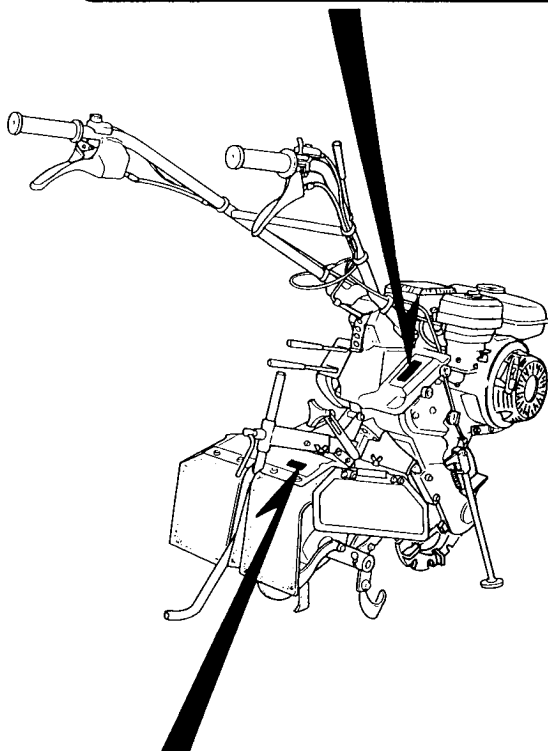


⚠ 警 告



死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。

- 急発進防止のためエンジン始動時は、主クラッチを切り、すべての変速レバーを中立にすること。
- 点検整備時はエンジンを停止すること。



⚠ 危 険



回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。

サ ー ビ ス と 保 証 に つ い て

- お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申し付けください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。

農用トラクター(歩行型)

ホンダFZAY

(区分;J)

※フレーム号機および銘板の表示
位置は13頁をご覧ください。
(参考:左の銘板はJタイプの物です)

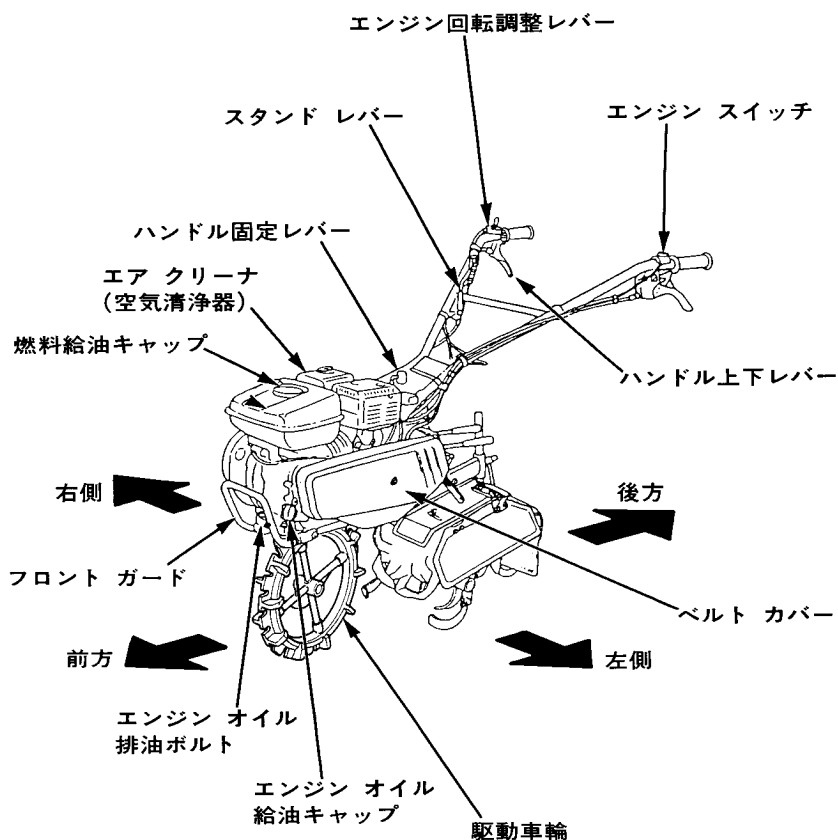
本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

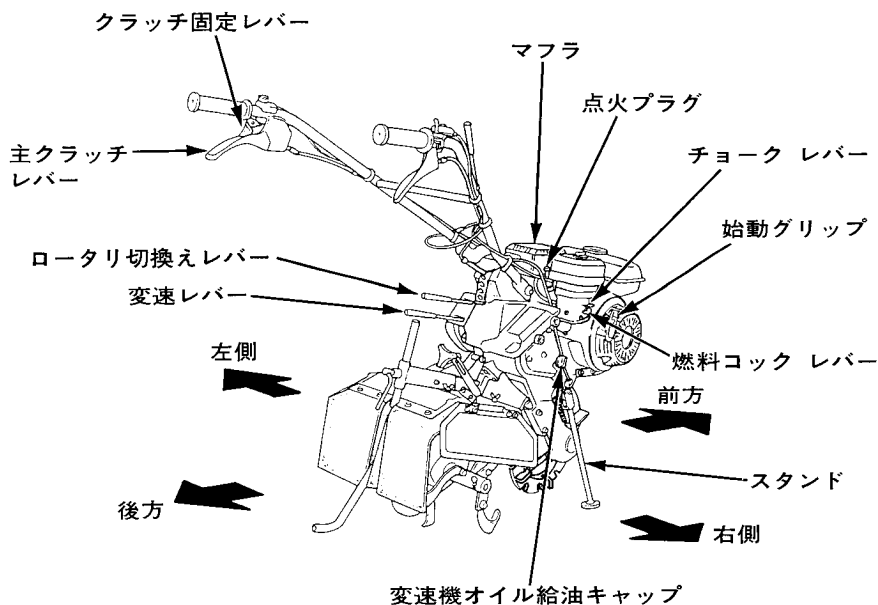
認定番号

安全鑑定適合番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

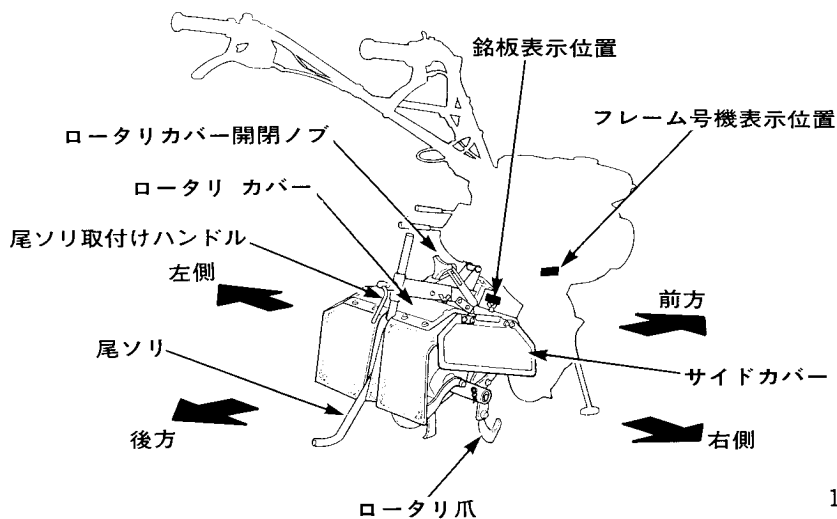
安全鑑定型式名	安全鑑定適合番号
ホンダ FZAY	15125

各部の名称と取扱いをおぼえましょう



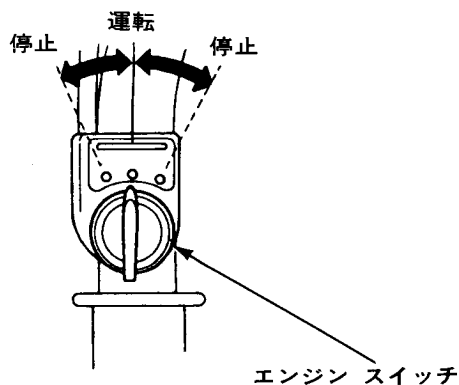


ロータリ部



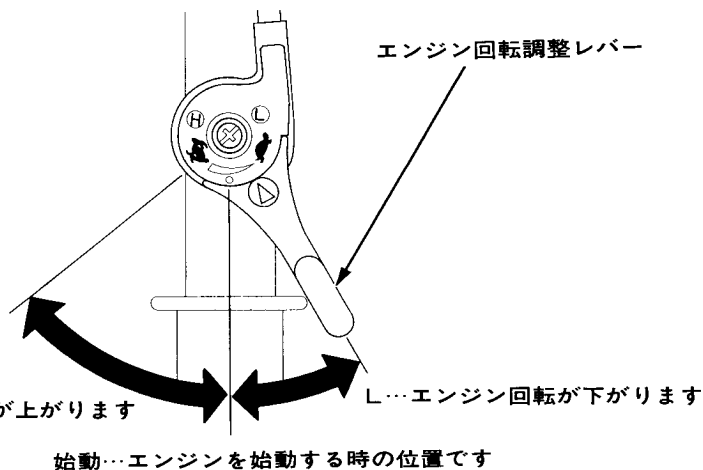
エンジン スイッチ

エンジン スイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



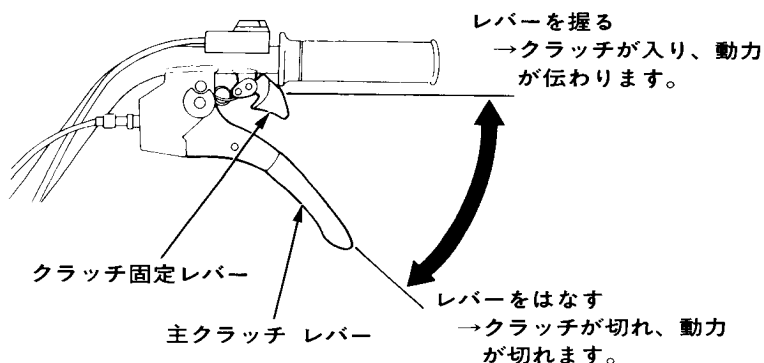
エンジン回転調整レバー

エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



主クラッチ レバー、クラッチ固定レバー

クラッチは、車軸、ロータリ軸への動力を断接する装置です。

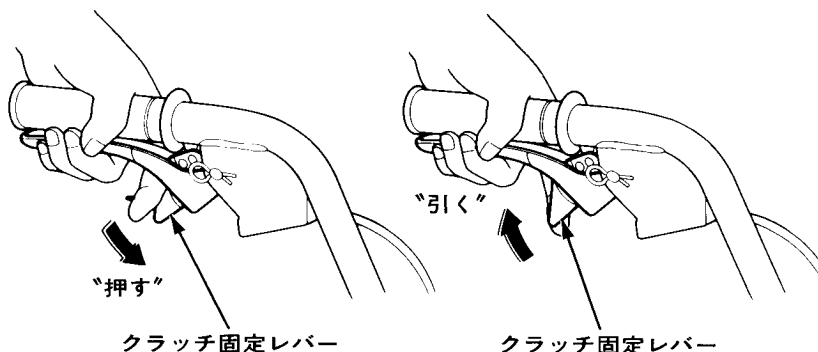


クラッチ固定レバーを操作することにより、主クラッチ レバーは握ったままの状態が保持できます。広い耕地や長時間使用するとき便利です。

- 主クラッチ レバーを握ってクラッチ固定レバーを指で押すと主クラッチ レバーは固定されます。
- 解除するときは、クラッチ固定レバーを手前に引き、主クラッチ レバーをはなします。

(固定)

(解除)

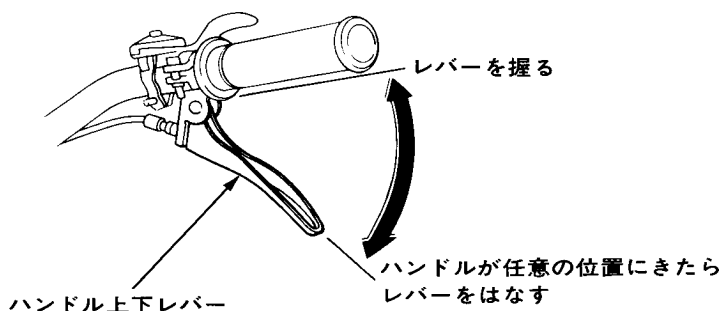


ハンドル上下レバー

ハンドルの高さを、作業内容、運転者の身長に合わせるレバーです。

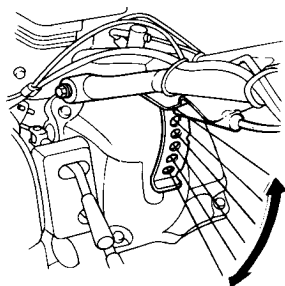
《調整のしかた》

ハンドル上下レバーを握り、ハンドルを上下させることにより6段階に調整できます。作業しやすい位置にハンドル高さを調整してください。



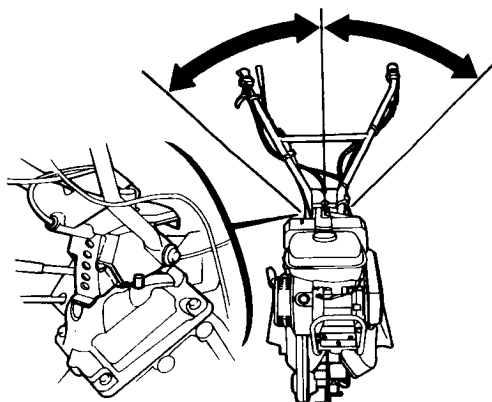
●ハンドルは“カチリ”と音がする位置で固定してください。

固定されているかハンドルを軽く上下に動かして確認してください。



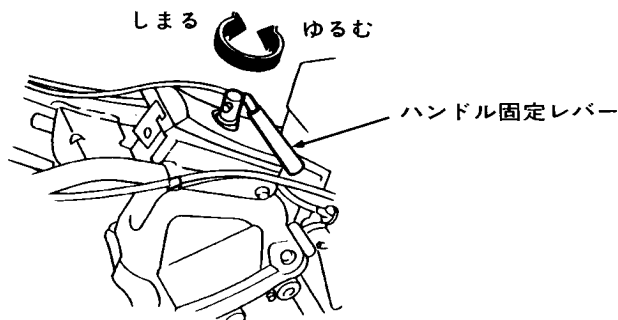
ハンドル固定レバー

ハンドルの角度を調整するときに操作します。
角度は左・右それぞれ3段階に調整できます。



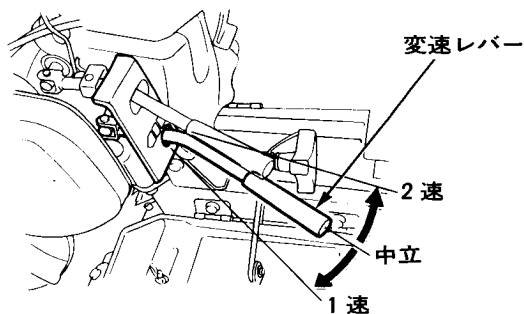
《角度調整のしかた》

固定レバーを3回～4回まわしてゆるめ、ハンドルを任意の位置に合わせ固定レバーを締め付けます。



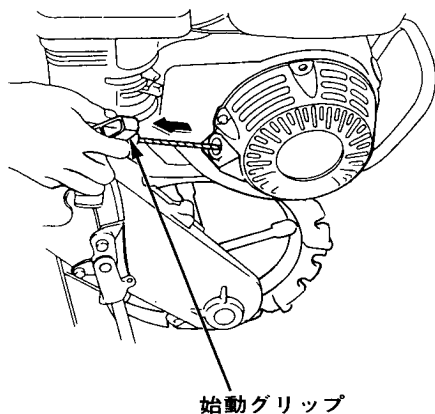
変速レバー

本機の速度を変えるときに操作します。
変速は、前進2段と中立です。



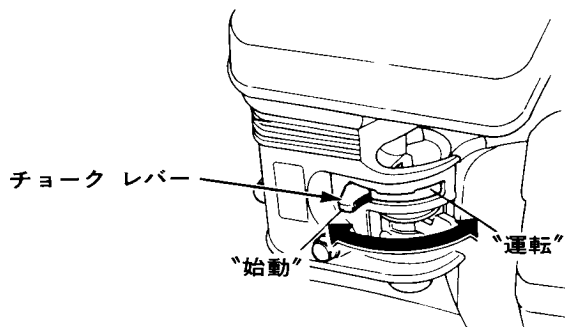
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



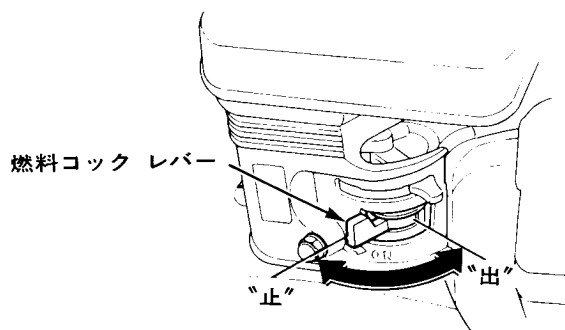
チョーク レバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



燃料コック レバー

燃料コック レバーは、タンクのガソリンを出したり止めたりするときに操作します。

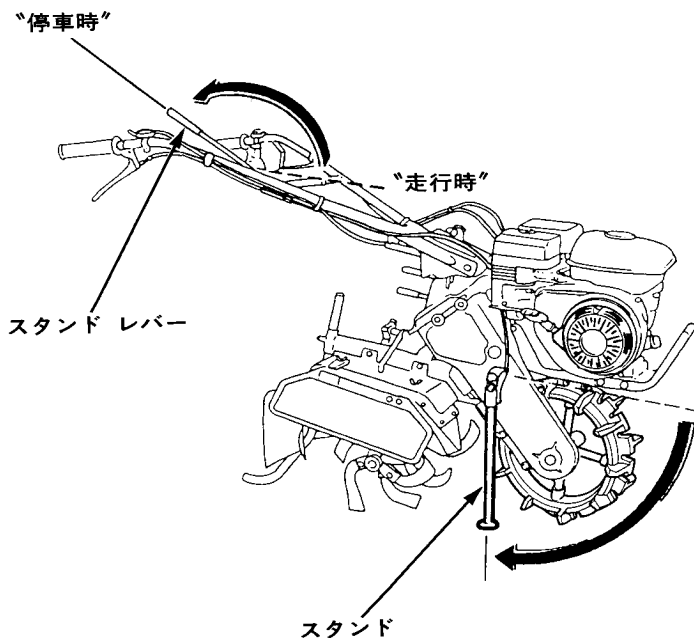


スタンド レバー

スタンドを使用するときに操作します。

スタンドを使用するとき→スタンド レバーを“**停車時**”位置にする。

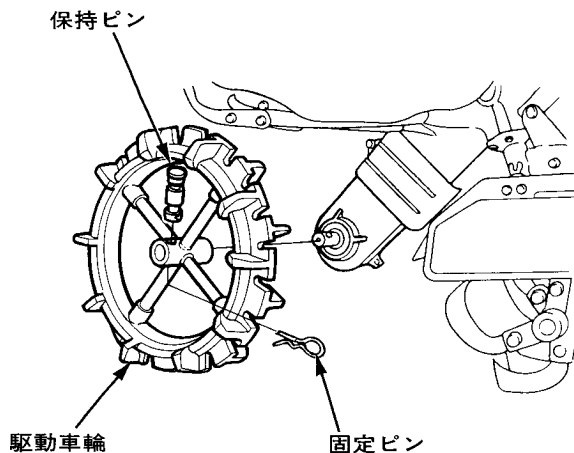
スタンドを使用しないとき→スタンド レバーを“**走行時**”位置にする。



駆動車輪取付けピン(Jタイプ)

駆動車輪の取付け、取外しを行うときに取扱います。

石かみ等で保持ピンが折れたときは図のように交換してください。



取扱いのポイント

- 駆動車輪に石噛み等で過大な力がかかると保持ピンは折れる構造になっています。折れた場合は原因を取除き指定の保持ピンを取付けてください。
- 指定以外の保持ピンを取付けると本機に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ロータリ切換えレバー

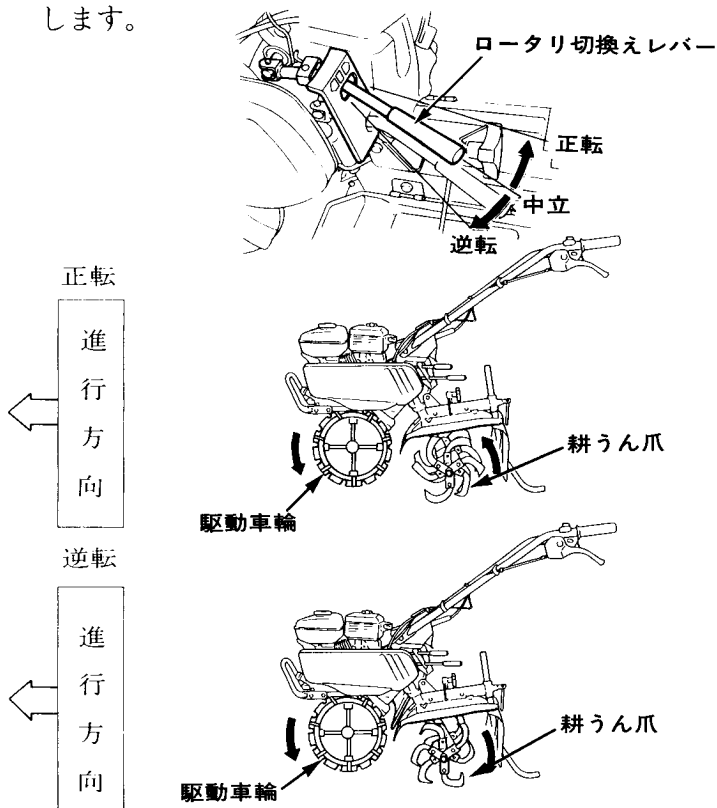
ロータリに動力を伝えるときに操作します。

切換えレバー操作により“正転”“中立”“逆転”に切換えることが出来ます。

正転…耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と同方向に回転します。

中立…耕うん爪は回転しません。

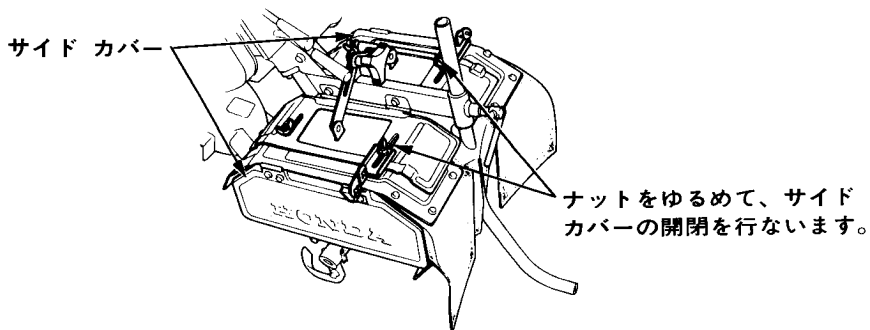
逆転…耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と逆方向に回転します。



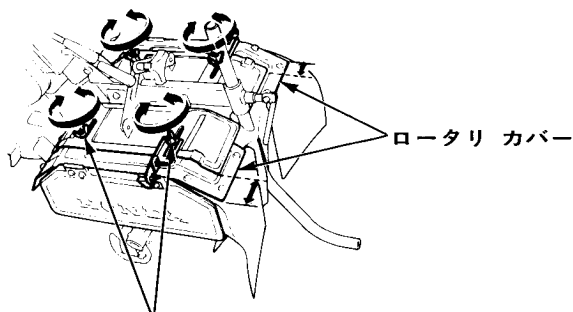
逆転で作業する場合はロータリ ホルダを左右入れ替えフロントカバーを取付けてください。(26、29頁参照)

ロータリ

サイド カバーの開閉

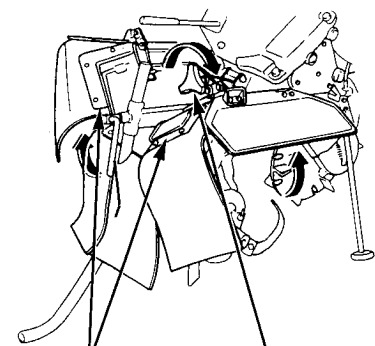


ロータリ カバーの延長



両方のナットをゆるめてロータリ カバー
を延長します。

ロータリ カバーの開閉

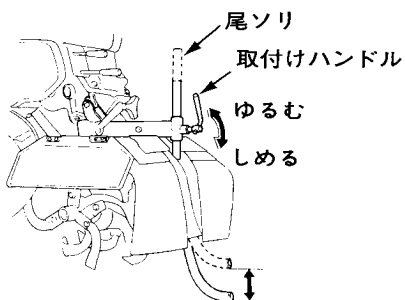


ロータリ カバー

ノブをゆるめてロータリ カバー
を開閉します。

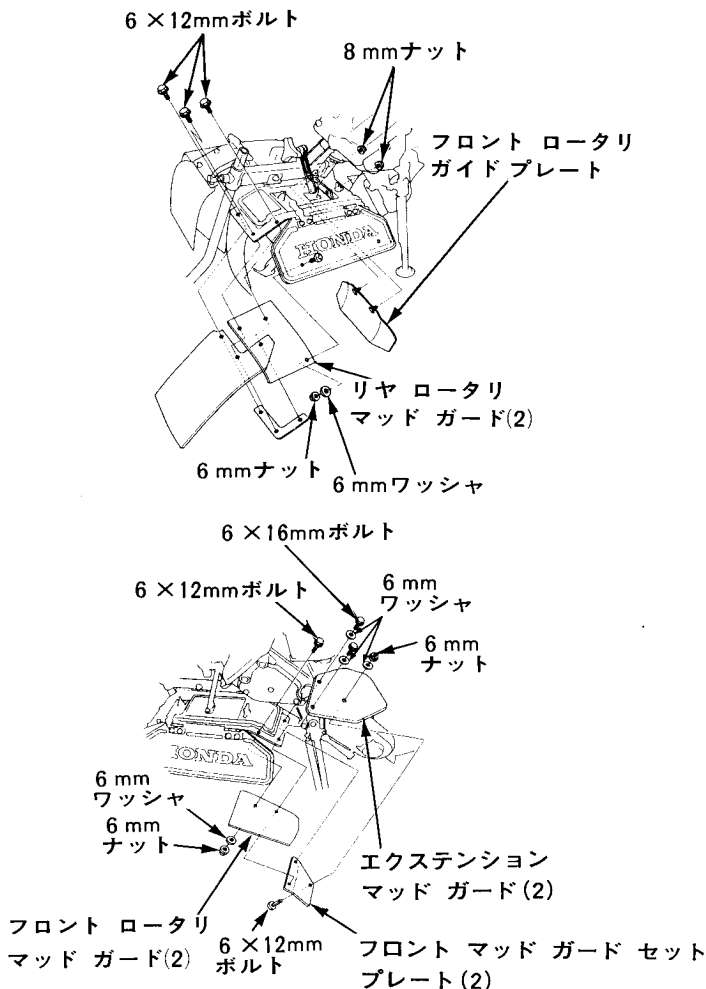
尾ソリ

耕うん深さを調節するとき尾ソリを上下させて調節します。
尾ソリを上下させるときは取付けハンドルをゆるめて行います。



フロント ガイド プレート、マッド ガード、 マッド ガード セット プレート

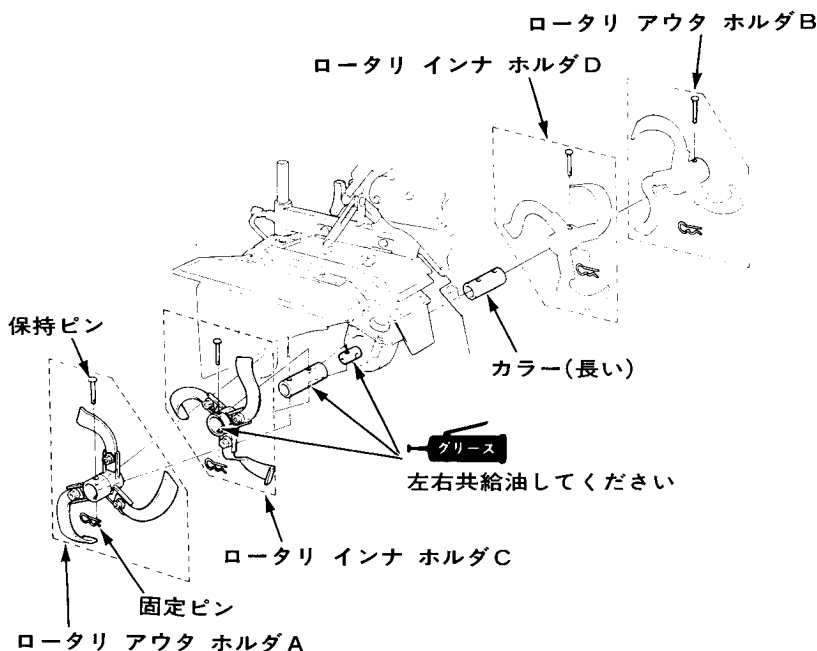
逆転作業時は下図のように必ずフロント ガード プレート、マッド ガード及びマッド ガード セット プレートを取付けてください。
正転作業するときは、逆転作業時に取付けた物を取外して作業してください。



耕うん幅

ロータリは下図のような取付け組合せにより耕うん幅を変えることができます。

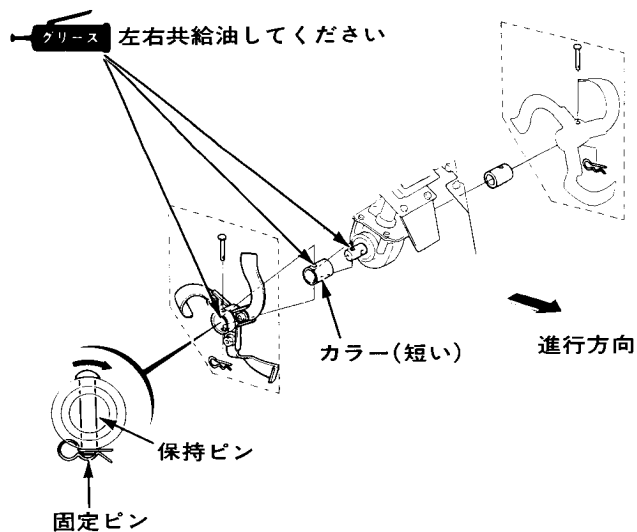
- ロータリ アウタ ホルダを取付けるときはホルダ位置をロータリ インナ ホルダと60°位相をずらして取付けてください。
- ・そのときロータリ アウタ ホルダ④と⑤、ロータリ インナ ホルダ③と⑥の耕うん爪は左右同時打ちになるように取付けてください。



取扱いのポイント

固定ピンは、ロータリの回転方向と逆方向から差し込んでください。

- ロータリ インナ ホルダを左右に取付けます。
- ・ そのとき短い方のカラーを使用してください。



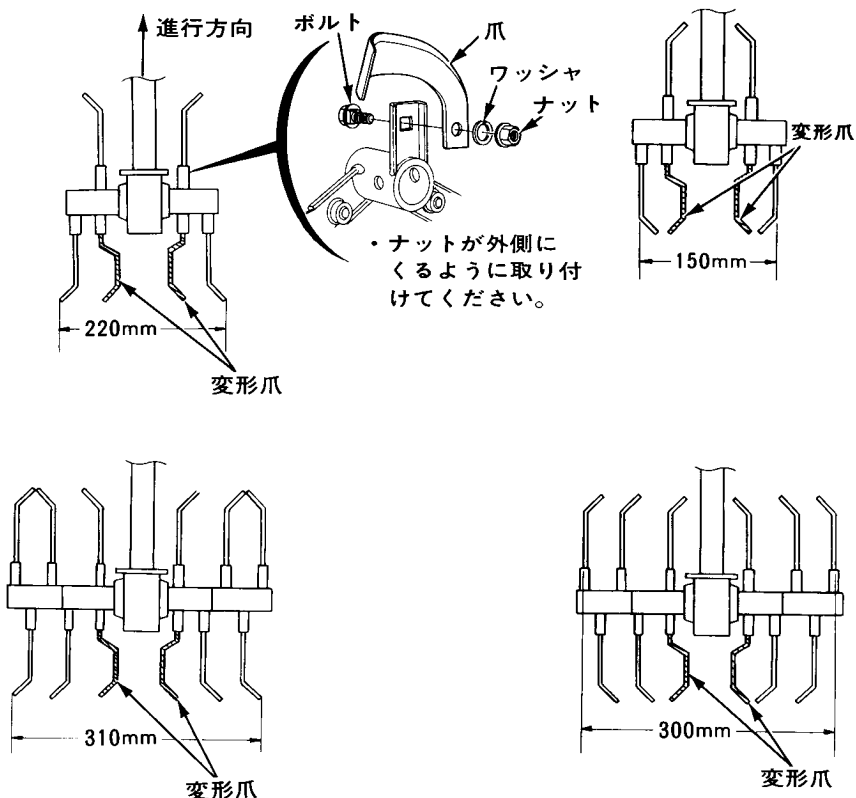
耕うん爪と外爪と内爪

耕うん爪の取付けは外爪と内爪の2種類あります。

- ・ロータリ インナ ホルダとロータリ アウタ ホルダの取付けは26、27頁参照ください。
- ・下図のようにそれぞれの方向に爪を取付けてください。

外爪

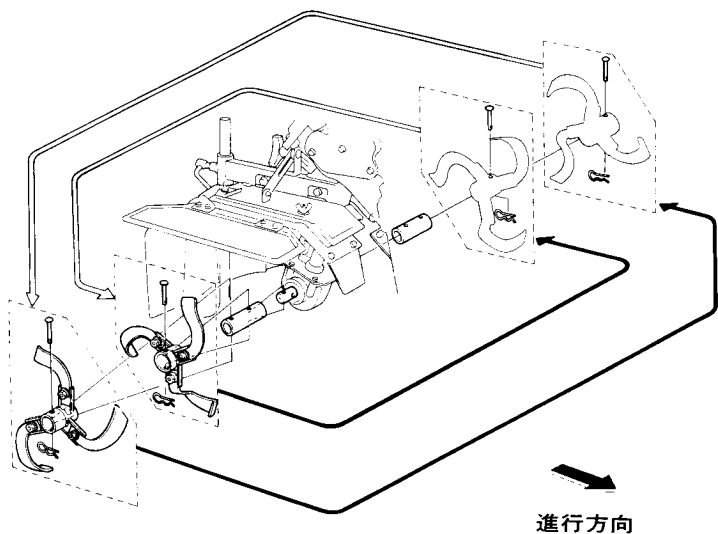
内爪



逆転時のロータリ ホルダの取付け

下図は正転時を基本とし、逆転時の取付け方を矢印で表わしています。
左右のロータリ ホルダを入れ替えて取付けてください。

●ロータリ 切換えレバーの操作で正転、逆転の作業ができます。



作業前に点検調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うとと思われる事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり……………燃料の量(31、32頁参照)、オイルの量(33頁参照)は規定量入っていますか。
燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- レバーの作動……………レバーの遊び量(55～58頁参照)は規定とおりですか。
引っかかりはないですか。
スムーズに作動しますか。
- 各部の締付け……………ハンドル固定レバー、ハンドル高さ調整レバーにゆるみ、がたはないですか。
ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類……………被覆のやぶれ、切れはないですか。
配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止…エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は36～40頁参照)
エンジン スイッチで確実に停止しますか。
(停止手順は47、48頁参照)
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

ガソリンの点検

⚠警告

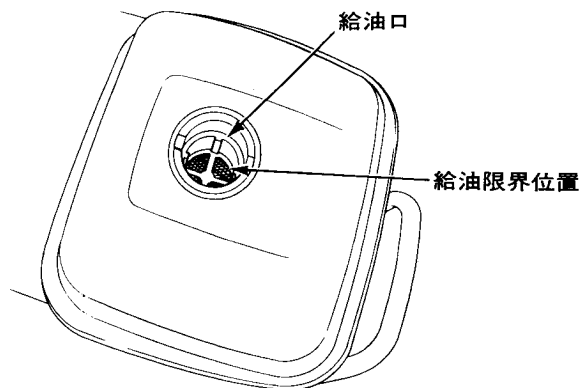
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 燃料は注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむき燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

エンジンを水平にし燃料給油キャップを外し、燃料の量を点検します。
少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。



補給

使用燃料：無鉛レギュラー ガソリン

- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいになわしてください。

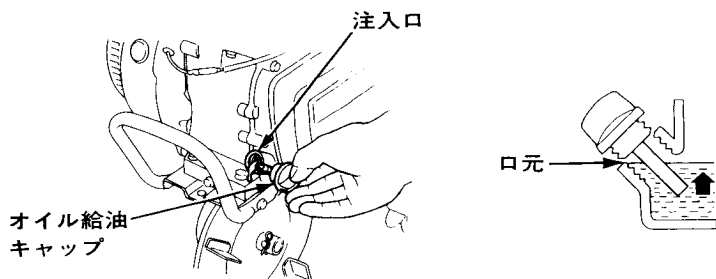
取扱いのポイント

- ガソリンにエンジン オイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。
- 必ず無鉛レギュラー ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジンオイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

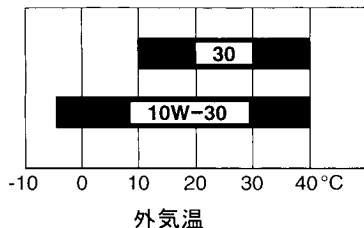


補給

- 少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は50、51頁参照）補給後、オイル給油キャップを手で完全に締付けてください。
- 推奨オイル：（4サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda純正ウルトラU汎用 (SAE10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30
オイルをご使用ください。

エンジン オイルは、外気温
に応じた粘度のものを表に
もとづきお使いください。



エンジン オイル量：0.6 ℓ

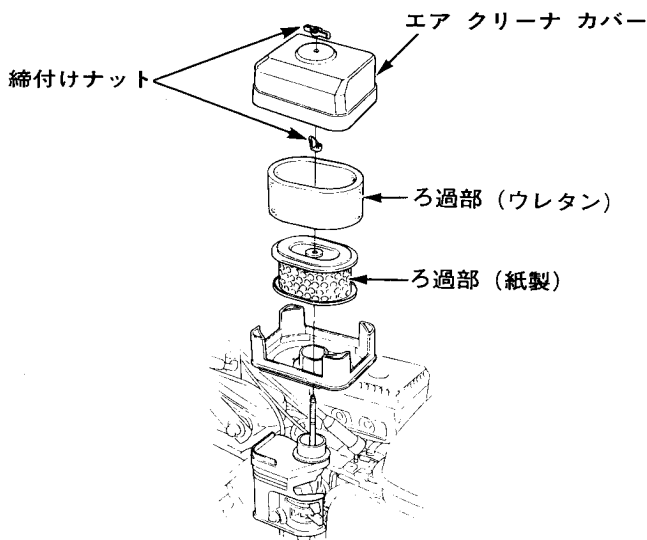
取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア クリーナ(空気清浄器)の点検

エア クリーナ カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。

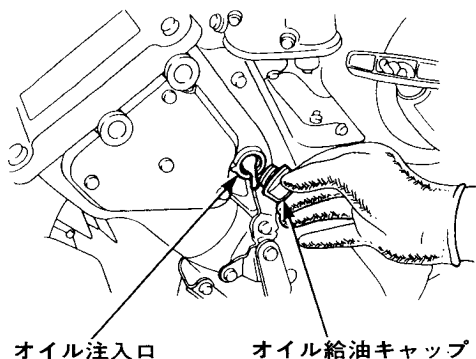
汚れている場合は清掃してください。(清掃時期、方法は52頁参照)



変速機オイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。すくない場合は補給してください。

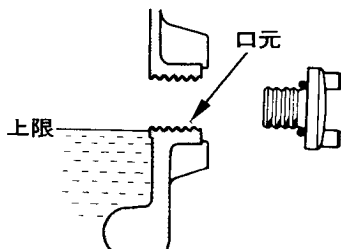


補給

《推奨オイル》 Honda純正ウルトラU汎用 (SAE10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

変速機オイル量：1.5 ℓ

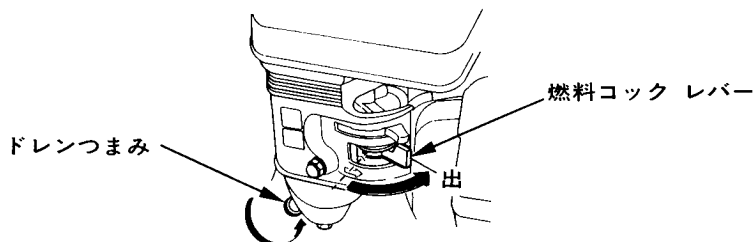
- オイル給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- 補給後、キャップは完全に締付けてください。



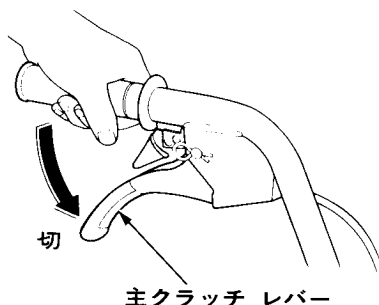
⚠警告

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 回りで作業をしている人がいたら回りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- クラッチレバーが“切”、変速レバーが“中立”になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

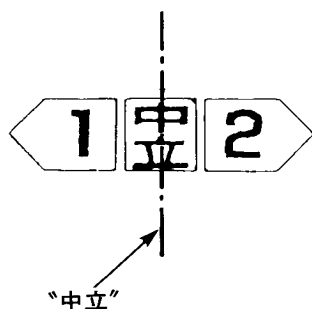
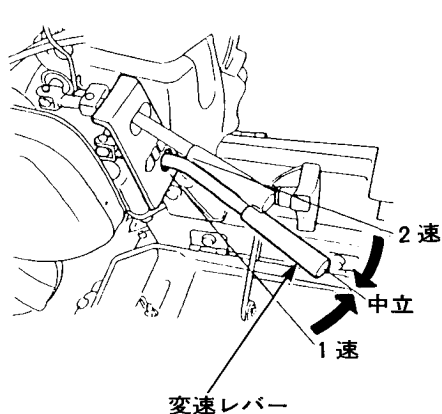
1. 燃料コック レバーを“出”にします。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。



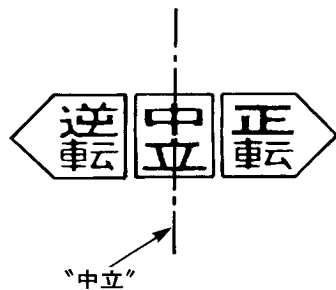
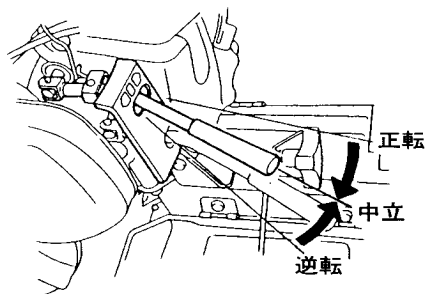
2. 主クラッチ レバーが“切”になっていることを確認してください。



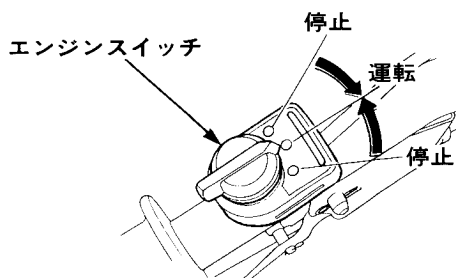
3. 変速レバーが“中立”になっていることを確認してください。



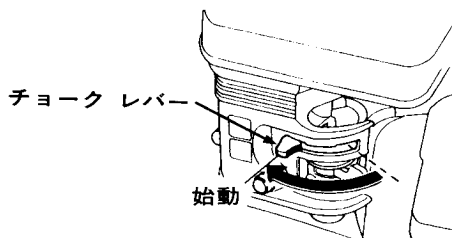
4. ロータリ切換えレバーが“中立”になっていることを確認してください。



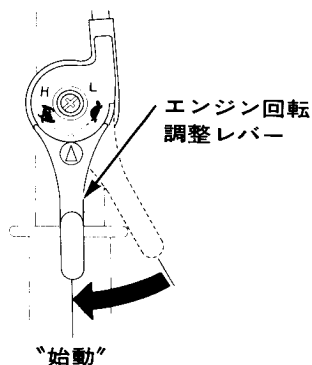
5. エンジン スイッチを“**運転**”の位置にします。



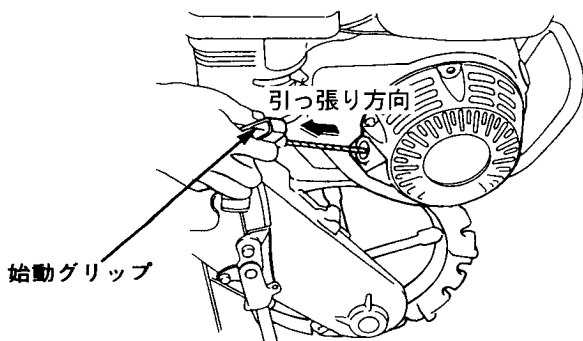
6. 寒いときやエンジンがかかりにくい場合には、チョーク レバーを“**始動**”の位置にします。



7. エンジン回転調整レバーを“**始動**”の位置にあわせます。



8. 始動グリップを引き重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



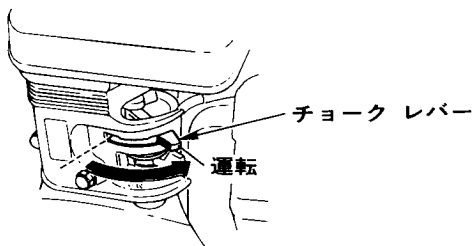
⚠ 注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

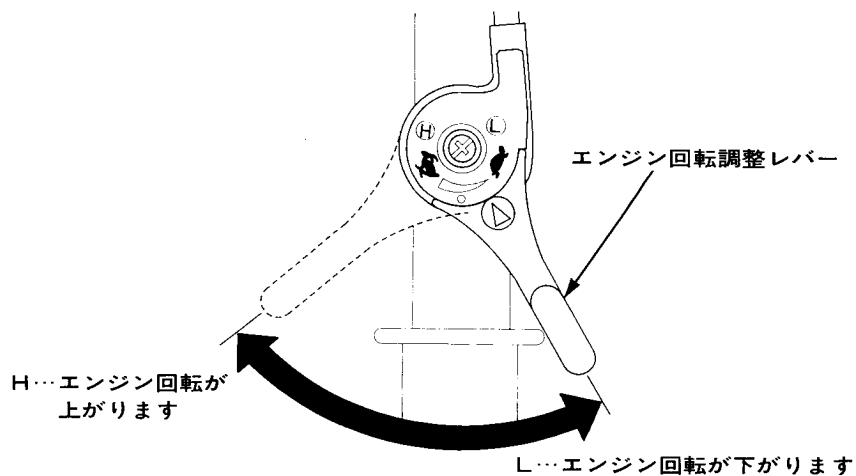
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり放してください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

9. エンジンが始動します。
10. 2～3分間暖機運転を行います。チョーク レバーを“始動”にしたときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に“運転”の方向に戻します。



11. エンジン回転調整レバーを調整して、適切なエンジン回転にします。



運 転 操 作 の し か た

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

ロータリ

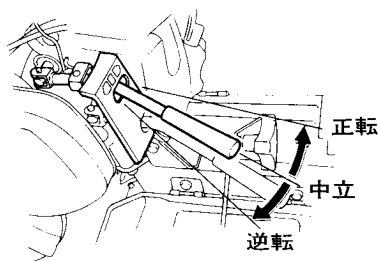
●ロータリ切換レバー

・切換レバー操作により“正転”“中立”“逆転”に切換えることができます。

正転…耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と同方向に回転します。

中立…耕うん爪は回転しません。

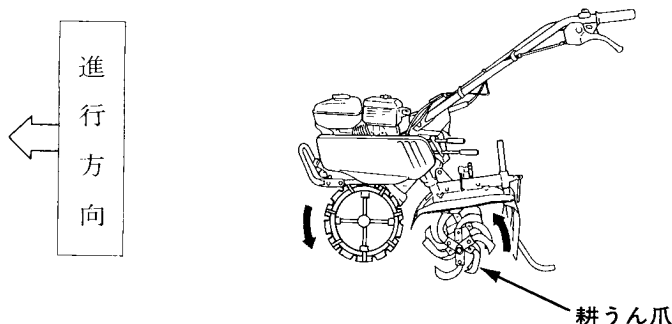
逆転…耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と逆方向に回転します。



取扱いのポイント

- 切換レバーの操作を行うときは、必ず本機の主クラッチ レバーを“切”にしてください。
- 操作がスムーズにいかないときは、前進、後進切換レバーを“中立”にし主クラッチ レバーを“入”にして動かし、主クラッチを“切”にしてもう一度操作してください。

《正転》



ロータリ切換レバーを`正転`から`逆転`、`逆転`から`正転`へ切換えて作業を行う時は左右のロータリホルダを入換えてください(29頁参照)。

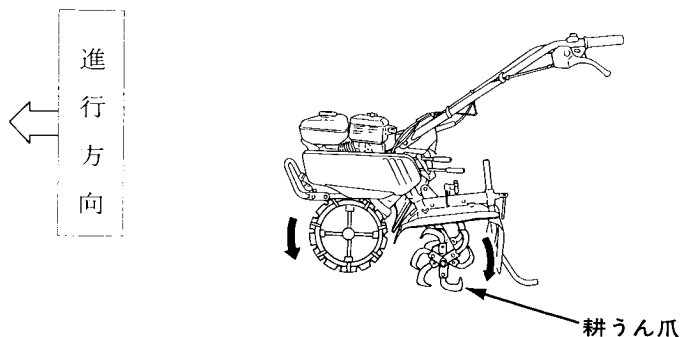
⚠注意

正転作業のときに逆転へ逆転作業のときに正転へレバーを切換えないでください。本機が飛び出し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

取扱いのポイント

正転作業をするときは逆転作業時に取付けた物を取外して作業してください(25頁参照)。

《逆転》



変速

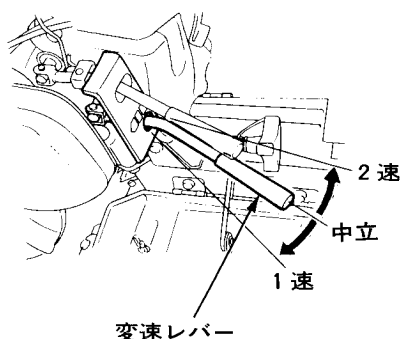
●変速レバー

変速表の適応作業を目安に変速位置を選びます。

速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

変速の要領

- 1) 変速レバーは、必ずクラッチを切ってから操作します。
- 2) 変速レバーが作動しにくいときにはいったんクラッチをにぎった後クラッチを切りもう一度操作します。



変速表

エンジン回転3,600rpm時

変速位置	車軸回転数(rpm)
1	32.1rpm
2	59.3rpm

運転

●主クラッチ レバー

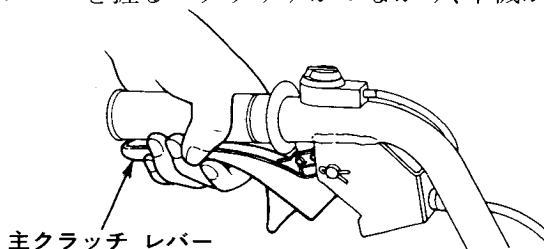
主クラッチ レバーを操作することより、本機の走行及び停止が行えます。

⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

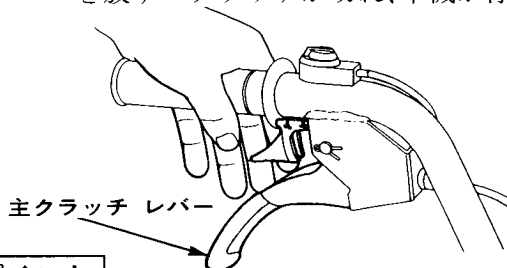
走行

主クラッチ レバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。



停止

主クラッチ レバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。



取扱いのポイント

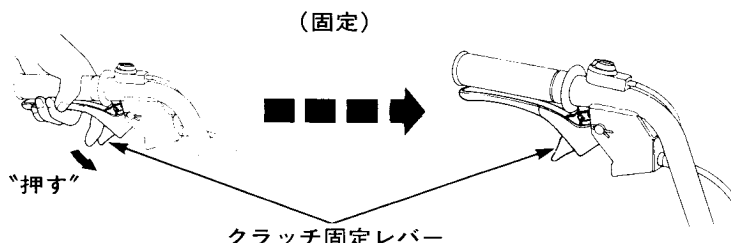
- 主クラッチ レバーの操作は、静か(スムーズ)に行います。
- 急激な操作を行うと本機が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

●クラッチ固定レバー

クラッチ固定レバーを操作することにより、主クラッチ レバーは握ったままの状態が保持できます。広い耕地や長時間使用するとき便利です。

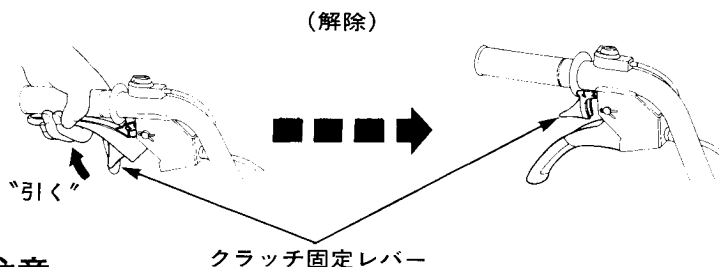
●主クラッチ レバー固定のしかた

主クラッチ レバーを握ってクラッチ固定レバーを人差し指で押すと主クラッチ レバーは固定されます。



●主クラッチ レバー固定解除のしかた

解除するときは、固定レバーを人差し指で手前に引き、主クラッチ レバーを放します。

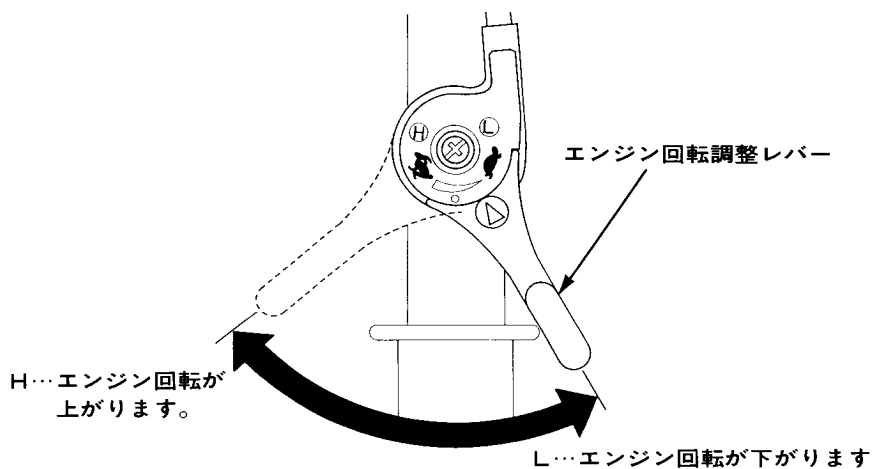


⚠注意

- 固定レバーは狭いハウス内、障害物のある耕地では使用しないでください。
ハウスや障害物に衝突し思わぬ事故の原因となります。
- 固定レバーを使用し作業を行う時は、状況に応じすぐ解除できる状態を保ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

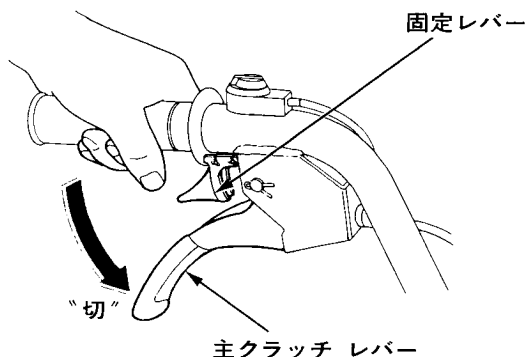
●エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて設定してください。

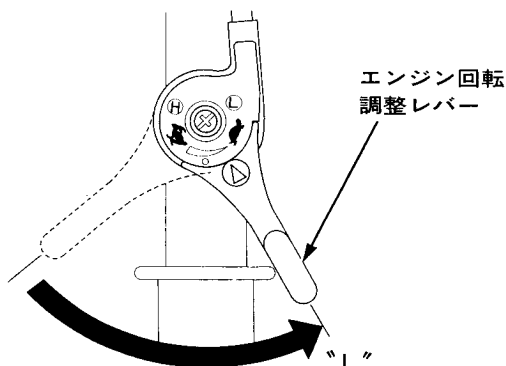


エ ン ジ ン の と め か た

1. 主クラッチ レバーを“切”にします。
 - 主クラッチレバーが固定されている場合はクラッチ固定レバーを引いてから主クラッチ レバーをはなして“切”にします。

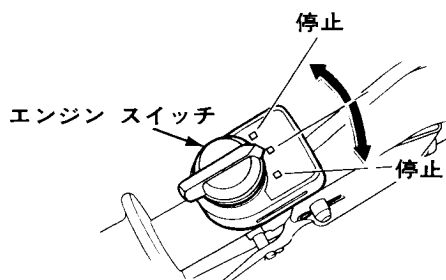


2. エンジン回転調整レバーを“L”の方向に戻し、エンジン回転を下げます。

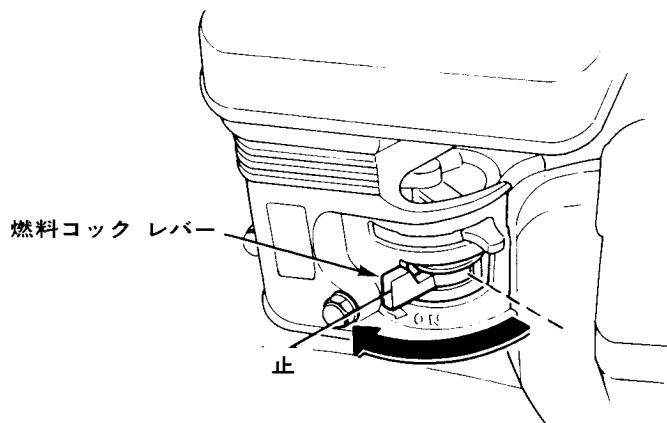


3. 変速レバーを“中立”の位置にします。(37頁参照)
4. ロータリ切換レバーを“中立”の位置にします(37頁参照)。

5. エンジン スイッチを“停止”にします。



6. 燃料コックレバーを“止”にします。



定期手入れを行いましょぅ

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょぅ。

点検時期 (2)		作業前 点検	1ヶ月目 または 初回20時間 運転目	3ヶ月毎 または 50時間 運転毎	6ヶ月毎 または 100時間 運転毎	1年毎 または 300時間 運転毎
点検項目						
エンジン オイル<注1>	点検	○				
	交換		○		○	
エア クリーナ	点検	○				
	清掃			○ (1)		
本機の周り	点検	○				
レバーの作動	点検	○				
各部の締付け	点検	○				
配線、ケーブル類	点検	○				
エンジンの作動	点検	○				
変速機オイル	点検	○				
	交換	2年ごと (3)				
駆動ベルト	点検 調整		○ (3)		○ (3)	
燃料ろ過カップ	清掃				○	
アイドル回転	点検 調整					○ (3)
点火プラグ	点検 調整				○	
	交換					○
エンジン回転調整	点検 調整					○
ケーブル	点検 調整					
主クラッチ ケーブル	点検 調整		○		○	
ハンドル上下レバー ケーブル	点検 調整				○	
スタンドレバー ケーブル	点検 調整					○
吸入、排気弁隙間	点検 調整			○ (3)		
燃焼室	清掃	500時間運転毎 (3) (4)				
燃料タンクおよび フィルタ	清掃					○ (3)
燃料チューブ	点検	2年毎 (必要なら交換) (3)				

<注1> エンジン オイル……稼働期前にも必ず交換してください。

- (1) ホコリの多い所 (逆転土揚げ等) で使用した場合は、エア クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行なってください。
- (2) 点検時期は表示の期間または時間運転毎どちらか早い方で実施してください。
- (3) これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
- (4) 表示時間経過がすみやかに実施してください。

⚠ 警告

点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップを取外して行ってください。

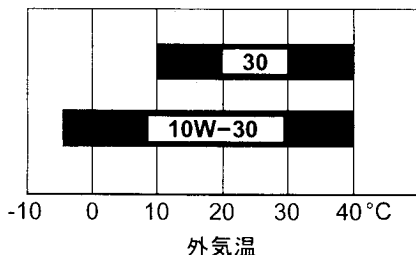
エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》 初回：1ヶ月目または、20時間運転目、
以後：100時間運転毎。
また、稼働期前には必ず交換してください。

《推奨オイル》（4サイクル ガソリン エンジン オイル）
Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）
またはAPI 分類SE級以上のSAEW-30 オイルをご使用ください。

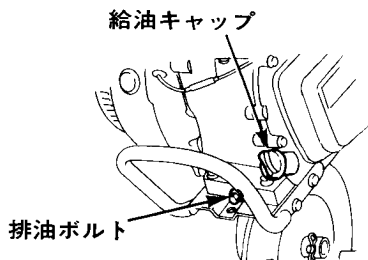
エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《エンジン オイル量》0.6 ℓ

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリング ワッシャーを取付けシリンダ バレルに確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



△注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
 - 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
 - 交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。
- 不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

エア クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア クリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

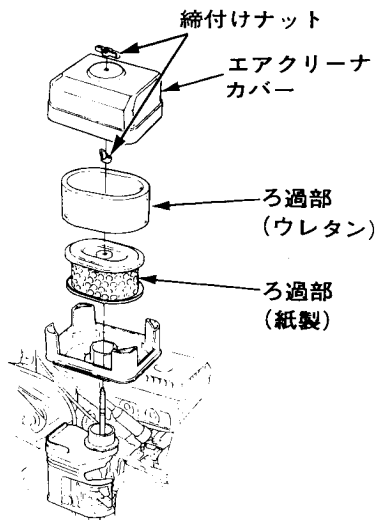
⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》 3ヶ月毎または、50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回または10時間毎。

1. 締付けナットをゆるめ、図のようにエア クリーナ カバーを取り、ろ過部を取外します。
2. ろ過部(ウレタン)は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後固く絞ってから取付けます。
3. ろ過部(紙製)は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4. 点検後はエア クリーナ カバーを確実に取付けたあと接続部がはずれていないか確認してください。



取扱いのポイント

- エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア クリーナ カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。
- エア クリーナを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。
- ろ過部(ウレタン)にオイルをつけすぎないように注意してください。

点火プラグの清掃、調整、交換

電極が汚れたり、火花すき間が不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています、やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検、調整時期》

6ヶ月毎または、100時間運転毎

《交換時期》

1年毎または、300時間運転毎

《清掃のしかた》

1. 点火プラグ キャップを外します。
2. プラグ レンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグを清掃します。

プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

- プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落としてください。

《調整》

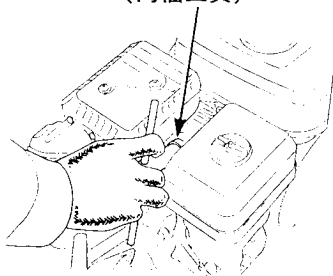
4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.7～0.8mm

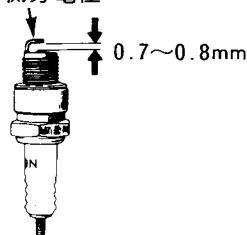
《標準プラグ》BP4ES(NGK)

W14EP-U(DENSO)

プラグ レンチ
(同梱工具)



側方電極



取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外のプラグを使用しないでください。
- プラグの取り付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締め付けてください。
- 点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

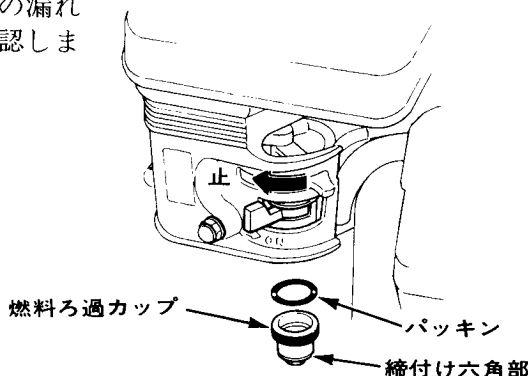
- 火気を近づけないでください。
- 燃料ろ過カップの取付け後、漏れがないか点検してください。
- ガソリンが廻りに付いている場合は良くふき取り完全にかわしてからエンジンを始動してください。

《清掃時期》

6ヶ月毎または、100時間運転毎

《清掃》

1. 燃料コック レバーを“止”にします。
2. 燃料ろ過カップの六角部をゆるめ取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、ガソリン漏れのないようパッキンを元どおりに取付け締付け六角部を確実に締付けてください。
5. 燃料コック レバーを“出”にし燃料の漏れのないことを確認します。



エンジン回転調整ケーブルの点検調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

《調整時期》

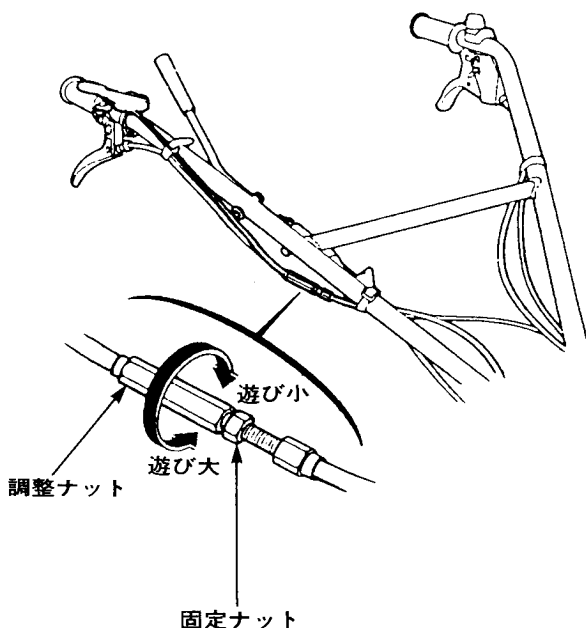
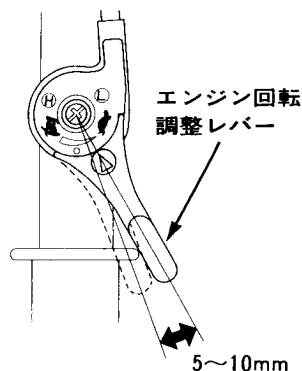
1年毎または、300時間運転毎

《調整》

1. エンジン回転調整レバーが“L”の位置の遊びが、先端で下記寸法になるように調整します。

遊び：5～10mm

2. 調整は、固定ナットをゆるめて調整ボルトをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



ハンドル上下レバー ケーブルの調整

⚠注意

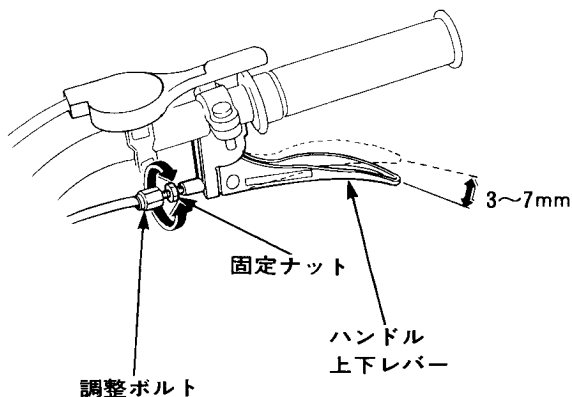
ハンドル上下レバー ケーブルの調整が完全でないと、作業中にハンドルが動き思わぬ事故になるおそれがあります。

《調整時期》

1年毎または、300時間運転毎

《調整》

1. ハンドル上下レバーの遊びが、レバー先端で3～7mmになるように調整します。
2. 調整は、固定ナットとゆるめ調整ボルトをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



スタンド レバー ケーブルの調整

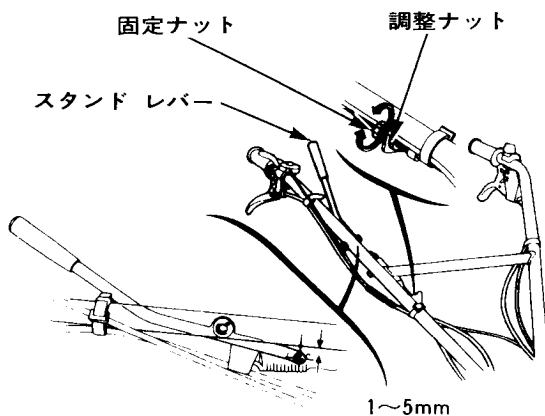
スタンド レバー ケーブルの調整が正しくないと、スタンドの作動が悪くなります。

《調整時期》

1年毎または、300時間運転毎

《調整》

1. スタンド レバーを“停車時”の位置にし、レバー先端で3～7 mm になるように調整します。
2. 調整は、固定ナットとゆるめ調整ナットをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



主クラッチ ケーブルの調整

主クラッチ ケーブルの調整が完全でないと、主クラッチの切れが悪くなったり駆動ベルトがすべったりします。

《調整時期》

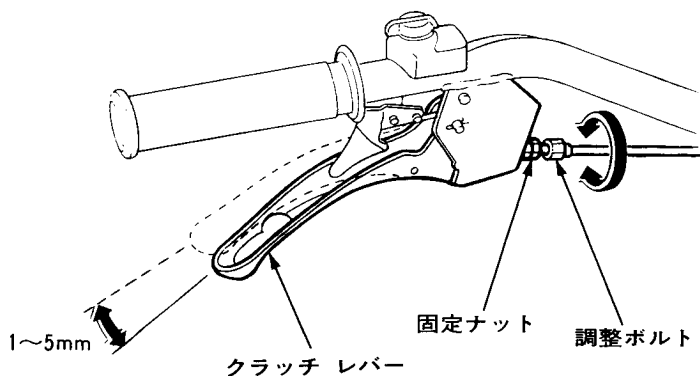
初回：1ヶ月目または、20時間運転目、以後：6ヶ月毎または、100時間運転毎

《調整》

1. 主クラッチ レバーの遊びがレバー先端で下記寸法になるように調整します。

遊び：1～5 mm

調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトで行います。



2. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

長 期 間 使 用 し な い と き の 手 入 れ

長期間運転しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は次の手入れを行なってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内のガソリンを抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ キャップをプラグから取外します。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して 死傷事故を引き起こすおそれがあります。

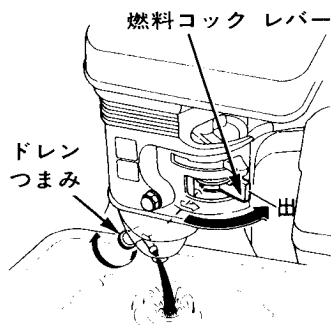
ガソリンを抜くときは

- ・ 換気の良い場所で行ってください。
- ・ 火気を近づけないでください。
- ・ ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

1. 燃料タンク、キャブレータ（気化器）内のガソリンを抜きます。

《抜き方》

- 1) 燃料コック レバーを“出”にします。
- 2) キャブレータのドレンつまみ（ガソリン排出用つまみ）を1～2回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。
- 3) 完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
- 4) 燃料コック レバーを、“止”にします。



2. エア クリーナを清掃します。(清掃方法は52頁参照)
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジン バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)
4. クラッチ レバーを“切”にします。
5. 30日以上保管する場合は、錆防止のため潤滑剤（グリス）をクラッチレバー廻りの摺動部へ塗布してください。

取扱いのポイント

- ・ 次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- ・ 本機を水平状態にして平坦で安定した場所で保管してください。ハンドルを地面につけた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなる場合があります。

故 障 の と き は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確認しましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書通りですか？(36頁～40頁参照)
2. ガソリンはありますか？(31、32頁参照)
3. エンジン オイルは注入口、口元までありますか？(33頁参照)
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？(53頁参照)

- 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

クラッチが作動しない時は次の点を確認しましょう。

主クラッチ ケーブルの調整方法は取扱説明書通りですか？(58頁参照)

~~~~~ 少し時間をおいてもう一度確かめましょう ~~~~~

# 主 要 諸 元

|                   |                             |                           |                  |
|-------------------|-----------------------------|---------------------------|------------------|
| 名                 | 称                           | FR315K1                   |                  |
| 型                 | 式                           | ホンダFZAY                   |                  |
| 区                 | 分                           | J                         | KA               |
| 機<br>体<br>寸<br>法  | 全 長                         | 1,275 mm                  |                  |
|                   | 全 幅                         | 615 mm                    |                  |
|                   | 全 高                         | 910 mm                    |                  |
| 装                 | 備 質 量 [ 重 量 ]               | 49.5 kg                   |                  |
| エ<br>ン<br>ジ<br>ン  | 名 称                         | GX120K1                   |                  |
|                   | 型 式                         | 空冷4ストローク傾斜型ガソリン (OHV)     |                  |
|                   | 総 排 気 量                     | 118 cm <sup>3</sup>       |                  |
|                   | 最大出力/回転速度<br>(SAEJ1349に準拠*) | 2.6 kW (3.5 PS)/3,600 rpm |                  |
|                   | 連 続 定 格 出 力                 | 2.1 kW (2.8 PS)/3,600 rpm |                  |
|                   | 使 用 燃 料                     | 無鉛レギュラー ガソリン              |                  |
|                   | 燃 料 タ ン ク 容 量               | 1.2 ℓ                     |                  |
|                   | 点 火 方 式                     | トランジスタ マグネット点火            |                  |
| 主<br>変            | 始 動 方 式                     | リコイル スタータ                 |                  |
|                   | ク ラ ッ チ 方 式                 | ベルト テンション                 |                  |
| 変                 | 速 段 数                       | 前進2段                      |                  |
| ハ ン ド ル ス イ ン グ   |                             | 最大左右各30° (3段階10°、20°、30°) |                  |
| ハ ン ド ル 高 さ 調 整   |                             | 6段(595~1,095 mm)          | 6段(600~1,100 mm) |
| エ ン ジ ン オ イ ル 容 量 |                             | 0.6 ℓ                     |                  |
| 安 全 鑑 定 適 合 番 号   |                             | 15125                     |                  |

\*:ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600 rpm (エンジン最大出力) で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。

量産エンジンの出力は、この数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値は、エンジン回転数及び使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

- ・機体寸法、質量は駆動車輪 (φ 320)、ロータリ (φ 280) の装着時です。
- ・全長、全高はハンドル上下レバーが最上段より3段目の数値です。

※諸元は予告なく変更することがあります。



Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、  
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の  
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社

お客様相談センター

イイフレアイオ

フリーダイヤル

0120-112010

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町 8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速  
にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、  
ご相談ください。

- ①製品名、タイプ名
- ②ご購入年月日
- ③販売店名

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年  
です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった  
場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた販売店**  
へお申しつけください。

